

# アメリカンフットボールの攻撃時におけるゲーム分析 -過去と現在の比較-

西 小夏 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード：アメリカンフットボール, 戦術, レッドゾーン

## 1. 緒言

本研究では、アメリカンフットボールの攻撃時の特徴について着目し、パターン分析することにより、どの部分に重点をおいて攻撃の戦術を検討すると、どのようなパターンが勝利を掴む上で有効であるかを検証することを目的とした。

## 2. 研究方法

分析対象は、2006年度から2008年度と2011年度から2013年度の日本社会人アメリカンフットボールXLeague 1ststage 後半と2ndstageの試合、XLeague WEST 所属の1チームに限定し、1年につき6試合ずつ、36試合を攻撃時のパス、ランに着目してVTR分析した。

## 3. 結果と考察

アメリカンフットボールは点数の取り合いのスポーツである。そこで、ゴール(エンドゾーン)に最も近い敵陣0-20yards(以下、レッドゾーン)に着目して分析した。

レッドゾーンに侵入した攻撃シリーズにおける結果を図に示す。(図1)

この過去と現在の比較の結果から、圧倒的に過去の方が得点率が高いことがわかる。レッドゾーンにいる割合も高く、得点率も高いといことは点数を多くとっているということである。

また、過去と現在においてのランとパスの比率は、現在の方がランの比率が高くラン重視の戦術に変わってきていることがわかる。だが、自陣0-20yardという比較的攻撃に有利なBall-on位置において、現在の獲得yardがマイナスになっていた。

レッドゾーンにおいては、過去が13%、現在が10%となっている。これは、攻撃チームのドライブにより、敵エンドゾーンに近い位置でプレイできていることが多いことを示しており過去の方が得点に近いことがわかる。

## 4. まとめ

過去と現在を比較すると、過去の方がレッドゾーンでプレイしている比率が高い、レッドゾーンで確実に得点する、プレイに偏りが少ないとわかった。

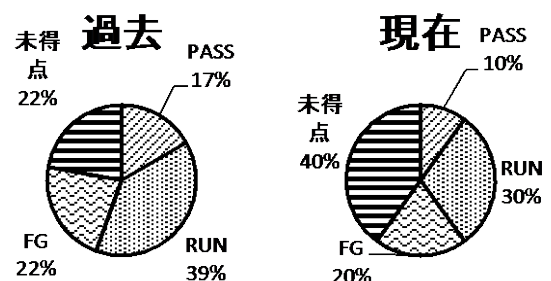


図1. レッドゾーンにおける攻撃結果

引用・参考文献

吉田康伸ら(1996)バレーボールにおけるフロントとバックの攻撃パターンについての研究